

東久留米市こども・若者に関するアンケート調査 調査報告書【概要版】(案)

第1章：調査の概要

1. 調査目的

令和9年度を始期とする新たな「市町村こども計画」策定のため、こども・若者及び子育て世帯の状況や意識を把握し、課題を抽出することを目的としています。また、法改正により努力義務化されたヤングケアラーの実態把握調査も併せて実施しました。

2. 調査対象・方法

- ・対 象： 小学生(市立小5・6年生)、中学生(市立中1～3年生)：悉皆調査
16-17歳(高校2年生相当)、若者世代(18-29歳)：無作為抽出
保護者(小5・中2・16-17歳の保護者)：悉皆および無作為抽出
- ・方 法： 学校配布または郵送配布、インターネット回答
- ・期 間： 令和7年11月1日～11月21日
- ・回収数(率)：小学生510件(26.0%)、中学生547件(21.6%)、16-17歳193件(19.0%)、
若者234件(23.4%)、保護者785件(27.9%)。
回収数からいって統計的に有意な結果であると評価できます

第2章：小学生・中学生・高校2年生保護者調査結果

1. 世帯と就労の状況

- ・回 答 者： 母親が82.6%、父親が16.6%。
- ・就労状況： 母親は「パート・アルバイト等」が46.3%、「正規職員」が23.2%。父親は「正規職員」が66.6%。就労時間は「8時間」が最多ですが、「9時間以上」も3割を超えます。
- ・暮らし向き： 「苦しい(やや・大変)」が36.1%、「ゆとりがある(やや・大変)」が14.1%。家計状況は「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎり」が35.8%で最多です。
- ・就学援助： 「受け取っていない」が84.8%。理由は「該当しない」が主ですが、「制度を知らなかった」も11.1%存在します。

2. こどもの健康と医療

- ・健康状態： こどもの健康状態は「よい・まあよい」が75.5%。
- ・受診控え： 過去1年間に具合の悪いこどもを受診させなかった経験が「ある」は9.7%。理由は「様子を見て判断した」が最多ですが、「多忙で時間がなかった」も31.6%あります。

3. 家庭生活と経済状況

- ・相談相手: 子育ての相談は「家族・親族」(84.5%)が最多。金銭的な援助を頼める人が「いない」世帯は16.5%。
- ・子どもへの支出: 学校外活動(塾や習い事)や家族旅行等は、経済的理由や方針により実施していない家庭が一定数あります。
- ・経済的困窮: 過去1年間に食料が買えない経験があった世帯は10.0%、衣類が買えない経験は13.9%。公共料金や家賃の滞納経験がある世帯も少数ながら存在します。
- ・体験活動: 海水浴やキャンプなどの体験活動が「ない」理由は、「時間の制約」や「経済的な理由」が挙げられています。

4. こどもの権利と意識

- ・権利の認知: 「こどもの権利」について「ある程度知っている」以上は約5割。
- ・権利の尊重: 大人として「尊重している」と回答した割合は9割を超えています。
- ・必要な仕組み: 「大人への啓発」(62.2%)、「学校での教育」(53.4%)、「こどもの意見表明サポート」(53.1%)などが求められています。

5. 虐待と体罰

- ・体罰の認識: 「行き過ぎた体罰を与えたことがある」保護者は6.3%。「わが子を虐待しているのではないか」と思い悩んだことがある」は13.7%。
- ・行為の頻度: 「大声でしかる」は「よくある・ときどきある」等の頻度が高い傾向にあります。

6. 公的サポート

- ・情報の入手: 「広報ひがしくるめ」が87.0%で最多ですが、今後は「市SNS」での情報を希望する声が多くなっています。
- ・制度利用: 児童手当等の利用率は高い一方、貸付事業や就労支援事業などは「制度を知らなかった」や「利用したかったが条件を満たさなかった」という回答も見られます。

第3章:小学生・中学生調査結果

1. 本人の状況と生活

- ・所有物: 自分専用のスマートフォンは中学生の約9割が所持していますが、小学生では約3割が「ない(ほしい)」と回答しています。
- ・自己肯定感: 「自分のことが好きだ」に「そう思う・まあそう思う」と答えた割合は、小学生77.0%、中学生72.4%です。
- ・家庭環境: 「家族は私を助けてくれる」等の肯定的回答が多い一方、親と一緒にの決定に関しては「あてはまらない」傾向も見られます。

- ・学校生活: 「学校が好き」な割合は小学生70.2%、中学生62.0%。「きれい」な割合は中学生で高くなります。
- ・放課後: 過ごす場所は「自分の家」が最多。「塾や習い事」も多いです。安心できる場所も「自分の家」が圧倒的多数です。

2. 将来の夢

- ・夢の有無: 「ある」は小学生67.3%、中学生51.2%。学年が上がると減少傾向です。
- ・内容: スポーツ選手、芸能・文化系、医療系、教員などが挙がっています。
- ・ない理由: 「具体的に思い浮かばない」が最多です。

3. ヤングケアラーについて

- ・認知度: 「知らなかった」が小学生68.0%、中学生50.8%と半数以上を占めます。
- ・世話の実態: 家族の世話をしている割合は小学生6.9%、中学生4.9%。
- ・世話の対象: 「きょうだい」が最多ですが、小学生では「母親」「父親」の割合も高くなっています。
- ・世話の理由: きょうだいが「幼い」、父母や祖父母が「介護が必要」「日本語が苦手」などの理由が挙げられています。
- ・世話の内容: 「見守り」「家事」「話を聞く」などが中心です。
- ・頻度・時間: 「ほぼ毎日」世話をしている小学生は20.0%。時間は「1～2時間」が多いですが、長時間世話をしているケースもあります。
- ・影響: 「自分の時間がとれない」「宿題をする時間がない」などの影響が出ています。
- ・相談: 世話について誰かに相談したことが「ない」割合が高く(小45.7%、中85.2%)、理由は「相談するほどの悩みではない」「変わらないから」などです。

4. 悩みと相談

- ・悩み: 小学生は「友だちのこと」(26.1%)、中学生は「学校の成績のこと」(49.4%)が最多です。
- ・相談相手: 家族や友人に話す割合が高いですが、「まったく話さない」相手として地域の大人や公的機関が挙げられています。

5. 虐待への意識

- ・しつけの認識: 「ご飯を食べさせない」「ベランダに閉め出す」等は「絶対にやってはだめ」との認識が9割を超えますが、「どなりつける」「おしりをたたく」等は許容する回答も見られます。
- ・相談行動: 虐待等があった場合、「相談する」が6割強ですが、「相談先がわからない」も1割程度存在します。

6. こどもの権利と意見表明

- ・権利の認知: 「聞いたことはある」を含めても認知度は十分とは言えません。
- ・意見表明: 学校等で自分の考えを伝えられていると思う割合は小学生76.2%、中学生48.6%。
中学生では「あまりそう思わない」が増加します。
- ・伝えない理由: 「自信がない」「伝えても反映されない」「伝えたい意見がない」などが挙げられています。
- ・伝えやすい方法: 「アンケート」「信頼できる人がそばにいる」「秘密が守られる」環境が求められています。
- ・居場所の要望: 「無料で勉強を教えてくれる場所」へのニーズが高く、「スポーツができる場所」への関心もあります。

第4章:16-17歳・18-29歳(若者世代)調査結果

1. 本人の属性と生活

- ・職業: 16-17歳は99%が学生。18-29歳は正規社員が43.6%、学生が30.3%、パート・アルバイトが11.1%。
- ・居場所: 「自分の部屋」や「家庭」を居場所と感じる割合が高い一方、「地域」や「学校・職場」を居場所と感じない割合も一定数あります。
- ・孤独感: 「たまにある」を含めると、孤独を感じる割合は4割を超えています。
- ・外出状況: 平日毎日外出する人が多数ですが、「自室からほとんど出ない」などの引きこもり傾向にある人もわずかながら存在します。その契機として不登校や人間関係のトラブルが挙げられています。

2. 将来への意識と結婚・子育て

- ・将来の希望: 自分の将来に「希望がある」は約7割。
- ・20年後のイメージ: 「幸せになっている」と思う割合が高い一方、「お金持ち」「有名」などは現実的な回答が多い傾向です。
- ・結婚観: 結婚したいと思う割合は約6割。したくない・わからない理由は「イメージがわからない」「自由な時間がない」「責任が重い」など。
- ・子育て観: こどもを持ちたいと思う割合は約6割。持ちたくない・わからない理由は「経済的な不安」「育児に対する不安」「自分の時間の確保」が上位です。

3. 悩みと生きづらさ

- ・生きづらさ: 社会生活を円滑に送れなかった経験が「ある」割合は16-17歳で35.2%、18-29歳で44.0%。

- ・原因: 「人づきあいが苦手」「精神的な病気」「何事も否定的に考えてしまう」などの自分自身に関する理由や、「成績不振」「集団行動が苦手」などの学校に関する理由が挙げられています。
- ・現在の悩み: 16-17歳は「進学」「勉強」「自分の将来」。18-29歳は「自分の将来」「お金」「仕事」が悩みの上位です。
- ・相談相手: 「親」「友人・知人」が主ですが、「誰にも相談しない」層も約1割います。

4. こどもの権利と意見表明

- ・権利の認知: 認知度は若者世代でも半数程度にとどまります。
- ・必要な仕組み: 「学校での教育」「大人への周知」「相談・サポート体制」が求められています。

5. 市の取組への要望

- ・必要な取組: 「お金の心配なく学べる支援」が最も多く(約65%)、次いで「自由に過ごせる場所」「就職支援」「困難を抱えた若者への包括的支援」などが求められています。

第5章: 小学生・中学生を対象としたヤングケアラーの実態把握調査結果

1. 調査結果の比較と特徴

- ・出現率: お世話をしているこどもの割合は小学生6.9%、中学生4.9%。国の調査(小6.5%、中5.7%)とおおむね同水準です。
- ・世話の対象: 「きょうだい」が最も多いですが、小学生では「父親」「母親」の世話をしている割合が国調査と比較して高くなっています(父34.3%、母45.7%)。
- ・世話の頻度と時間: 小学生では「3時間以上」世話をしている児童が5.7%おり、負担が重いケースが存在します。

2. 課題とまとめ

- ・認知度不足: 「ヤングケアラー」という言葉を知らない児童生徒が半数以上おり、周知が必要です。
- ・相談の壁: 自身の状況を「相談するほどではない」と捉えていたり、家庭のプライバシーに関わるため相談しにくい状況があります。当事者からの直接相談につながりにくいため、関係機関との連携強化が必要です。

第6章: 自由意見

1. 保護者

保護者からは、教育環境、経済的負担、市の施設や施策に対する具体的な要望が寄せられています

〔教育・学校環境への要望〕

- 給食：中学校給食の導入や、温かい給食の提供を求める声が多いです。
- 施設設備：学校のトイレの洋式化、空調設備の整備、体育館の雨漏り修繕など、老朽化への対応が求められています。
- 教員・指導：教員の多忙さへの懸念や、部活動の地域移行・外部委託(専門指導者の導入)を望む声があります。また、教員の指導力や対応(いじめ対応、理不尽な叱責など)への不満も見られます。
- 学習支援：経済格差による学力差を埋めるため、公的な学習サポートや補習の充実が求められています。

〔安心・安全と遊び場〕

- 学校周辺：通学路への街灯の増設や不審者対策、学校へのクレーマー対応に行政介入が求められています。
- 公園：「ボール遊びができる公園」や、子どもがのびのび遊べる広場の整備を求める声が多くあります。高齢者優先で子どもの遊び場が制限されていることへの不満もあります

〔経済的支援・医療〕

- 医療費：高校生までの医療費無償化や、インフルエンザ予防接種の助成など、近隣自治体と比較しての支援拡充を求める声が目立ちます。
- 所得制限：多子世帯や中間所得層に対する支援(所得制限の撤廃や緩和)を求める意見があります。

〔市の施策〕

- 子育て世帯への情報発信の強化や、電子申請などの利便性向上、公立保育園の存続などを求める意見があります。

2. 小学生

小学生からは、大人への率直なメッセージや、学校・日常生活での悩み、遊び場に関する意見が寄せられています。

〔大人へのメッセージ〕

- ・ 「怒鳴らないでほしい」「話をちゃんと聞いてほしい」「大人の意見を押し付けしないで」といった、対等な尊重を求める声が多いです。
- ・ 虐待は絶対にいけないという強い認識や、親への感謝の言葉も記述されています。

〔学校生活〕

- 先生：先生が怖い、話を聞いてくれない、理不尽に怒る、ルールを守らない(遅刻など)といった不満や、いじめ対応への不信感があります。
- 友人関係：友達関係の難しさや、陰口への不安などが挙げられています。

〔居場所・遊び場〕

- ボール遊びができる公園、バスケットゴールがある場所、図書館の漫画コーナーなど、自由に遊べる場所を求めています。
- 学校などで一人になれる場所が欲しいという要望もあります。

〔アンケート自体について〕

- 「長すぎる」という感想が多い一方、「自分の気持ちを言えてよかった」「秘密が守られるのが良い」といった肯定的な意見も見られます。

3. 中学生

中学生からは、より具体的な学校生活への不満や改善要求、社会や大人に対する批判的な視点、そして将来への不安が綴られています。

〔学校生活の改善〕

- 校則：厳しすぎる校則(髪型、下着の色などの指定)への疑問や改善要求があります。
- 給食：スクールランチの温度や味について、もう少し温かくて美味しいものを食べたい、また、もう少しボリュームが欲しいという声があります。
- 施設：トイレの洋式化、エアコンの整備、部活動設備の改善(テニスコートや照明)を求める声があります。

〔大人・社会への意見〕

- 「子供扱いしないで」「価値観を押し付けしないで」といった自立心の表れや、選挙公約の実現を問う声など、大人社会への厳しい目線があります。
- 虐待反対や、困っている人がいたら助けたいという意識も見られます。

〔悩み・不安〕

- 受験や成績へのプレッシャー、人間関係の悩み、家庭内不和(親の喧嘩など)によるストレスが吐露されています。

〔施設・街づくり〕

- 映画館やショッピングモールなど、若者が遊べる場所が欲しいという要望があります。

4. 16-17歳

高校生世代は、進学や将来を見据えた現実的な支援や、若者が過ごしやすい街づくりへの提案が多く見られます。

〔学習・進学支援〕

- 学習場所：図書館や自習室が少なく、夜遅くまで使えないことへの不満があり、無料の自習スペースの拡充が求められています。
- 費用：大学受験費用、予備校代、検定費用などへの公的補助を求める声があります。

〔居場所・施設〕

- 高齢者向けの施設ばかりでなく、若者が楽しめる施設（映画館、スケボー、スポーツコートなど）や、カフェ・ファストフード店の誘致を求めています。
- スポーツセンターの利用料などへの不満もあります。

〔安心・安全〕

- 街灯の増設や歩道の整備、治安向上（たむろする人への対策）が求められています。

5. 18-29歳

若者世代は、自立や結婚・子育てに直面する中での経済的な不安や、市の魅力不足・利便性に関する意見が中心です。

〔経済的支援・生活〕

- 生活苦：物価高や家賃負担が重く、結婚や子育てを考える余裕がないという切実な声があります。
- 支援：若者や単身者、大学生への給付金や家賃補助、奨学金返済支援などを求めています。

〔子育て環境〕

- 将来子供を持ちたいと考えているものの、金銭面や保育環境への不安から躊躇する声があります。公園の整備不足（ボール遊び禁止など）への指摘もあります。

〔市の魅力・施策〕

- 他市区（特に23区）と比較して、ゴミ袋の有料化やサービスの少なさに不満を感じる声があります。
- 若者が働ける場所や、魅力的な商業施設の誘致、駅周辺の活性化が求められています。
- 行政情報（支援制度など）が分かりにくいという指摘があります。